



大蔵省

大蔵省職制及事務章程

再六次改正ノ旨

熊谷



114
A2210
1



大藏省 職制及事務章程

第一章

職制

卿

第一 省中ノ官負ヲ統率ニテ事務ヲ總判スルヲ掌ル

第二 凡ソ制可ヲ乞フ一キ條ト專任ヲ得ルノ件トハ

章程ニ照シテ其權限ヲ確守ニ事務ヲ整理スル

ニ於テハ

天皇陛下ニ對シテ其責ニ任ス

第三 具專任ヲ得ルノ件ニ於テハ之ヲ全國ニ布達

大正十一年四月
大隈侯爵郵贈

之或ハ官廳ニ指示シ以テ一般ノ法令ト為スヲ
得ヘシ

第四 金穀出納及勘定上ニ關スル事件ニ於テハ立
法内ノ條款タリトモ實際ニ妨碍支吾アル寸ハ
意見ヲ開説シ可否ヲ辯議スルヲ得ヘシ

第五 歳出入ヲ豫算シテ之ヲ正院ニ進呈ス

第六 豫算外ニ於テ不時ニ要スル費進アルハ必下
議ニテ豫シメ承認ヲ經ルハトス

第七 專任ノ事件ハ他官廳長官ノ協議ニ依テ便宜施
行スルヲアルヘシ

第八 出納勘定一切ノ事ニ於テハ官有使府縣ニ其
方法規則ヲ指示シ及之ニ乖違スルヲアルハ督
責推問スルノ權ヲ有ス

第九 諸官廳ノ間ニ起ル所々出納勘定上ノ紛議ハ之
ヲ裁決ス

第十 省中奏任官ノ進退ハ臬狀ニテ命ヲ乞ヒ判任以
下ノ點涉ハ之ヲ專行ス

輔

卿ノ職掌ヲ輔ケ御事故アル寸ハ一切ノ事務ヲ
代理ス

丞

第一 卿ノ命ヲ承ケ各事務ヲ分課シテ之ヲ提掌ス

第二 ^{所管}省中判任以下ノ能否勤惰ヲ識別シテ卿ニ具狀

ス

録

大少丞若クハ課長ノ指揮ニ從ヒ各務ニ處ス

第二章

事務章程

大蔵省ハ全國ノ歳入出ヲ統轄シ天下ノ財政ヲ
 總理スルノ所ニシテ細大ノ税則ヲ節制シテ内
 外ノ租税ヲ徵收シ全計ノ盈縮ヲ量リ萬般ノ公
 費ヲ支登シ随テ其支過ノ當否ヲ検査シ其計數
 ヲ表出シ且金銀銅貨幣及紙鈔ヲ新製改造シテ
 財用ヲ通利シ國債ヲ輯罷スル等凡ソ理財會計
 ニ關スル大小ノ事務一トシテ其掌管ニ非ケル
 者ナシ然リ而メ之ヲ屬分スルニ當リ上奏制可

大蔵省

ヲ乞フ者アリ **大藏卿**ノ獨決施行スル者アリ右
兩項ノ綱領ヲ下條ニ掲載シ區分スル。上下款
ヲ以テニ權限ヲ明カニスルヲ左ノ如シ

工款

上奏制可ヲ請フヘキ者トス

第一條 歳入出ヲ計較シテ一歳公費ノ額ヲ定ムル事

第二條 新ニ租税ヲ賦課シ及前賦課ノ税率ヲ増減
スル事

第三條 海關稅ヲ定ムル事 物貨ノ輸出入ノ關稅スル

第四條 新ニ貿易ヲ開キ及物貨ノ輸出入ヲ開鎖スル

事

第五條 新ニ貨幣ノ形體品量ヲ定メ或ハ之ヲ變更ス
ル事

第六條 新ニ發スル紙幣ノ額及其樣式ヲ定メ **且其額**
ヲ増ス事

第七條 金券發行ノ會社ヲ准許シ及大藏省所管ノ會
社條例ヲ制定スル事

第八條 全國ノ統計表ヲ告示スル事

第九條 月給旅費及諸給与ノ制ヲ定ムル事

第十條 **官省使府縣額外ノ費用ヲ擅ニ仕拂タル時處**

分ノ事

第十二條 官省使定額外新ニ要スル費用ノ事

第十三條 新ニ内外國債ヲ募リ及諸種國債ノ年限ヲ伸

縮ニ或ハ利息ヲ増減スル事

第十四條 家祿賞典祿及社寺祿ノ予奪増減等其制度ヲ

定ムル事

第十五條 新ニ度量衡ノ制ヲ定メ或ハ之ヲ改正スル事

第十六條 若臺ヲ廢置ニ及其等級ヲ定ムル事

第十七條 省中ノ官員ヲ外國ニ派出スル事

下款

大藏卿ノ專決^獨行ヲ得ヘキ者トス

第一條 定額アル費用ヲ支出スル事

第二條 租税ヲ徴收スル事

第三條 收税ニ關スル方法規則ヲ遵明發揮ニ且取扱

順序ヲ定ムル事

第四條 天灾若クハ人為ニ依テ徴收ノ税額ヲ増減ス

ル事

第五條 海關稅ヲ收入ニ及輸出入ノ物貨取扱ノ方法

規則ヲ遵明發揮ニ且取扱順序ヲ定ムル事

第六條 物貨ヲ運輸ニ商務ヲ擴張スルノ方法規則ヲ
設立施行スル事

第七條 貨幣ヲ鑄造ニ及之ヲ發行ニ或ハ紙幣ト交換
スル事

第八條 既定額外ノ紙幣ヲ製造ニ及之ヲ發行ニ或ハ
新舊紙幣ヲ交換スル事

第九條 金銀ヲ發行スル會社ヲ監督ニ其景況ニ因リ
之ヲ廢停ニ或ハ其額ニ因リ廢停ヲ許可スル事

第十條 通常銀行及株式取引會社米穀相場取引會社
其他大藏省所管ノ會社創立ノ願ヲ許可ニ且之ヲ

監督ニ其景況ニ因リ之ヲ廢停ニ或ハ其額ニ因リ
廢停ヲ許可スル事

第十一條 金穀出細ノ法則ヲ設立ニ或ハ官金為替及預
ケノ方ヲ定ムル事

第十二條 會計ノ都合ニ依リ金穀ヲ便宜運用スル事

第十三條 統計ノ表式帳簿ヲ定メ又ハ之ヲ變更ニ及統
計ニ要ナル規則ヲ設ケ又之ヲ指示スル事

第十四條 月給旅費及諸給与ノ支給規則ヲ遵明發揮ニ
及取扱順序ヲ定ムル事

第十五條 勘定ノ方法規則及帳簿式ヲ設立スル事

第十六條 出納勘定其他管理 官省使府縣現費ノ實況ニ因リ該長官ノ協議
呼出シ或ハ之ヲ召集 監督推問スル事

第十七條 官省使府縣現費ノ實況ニ因リ該長官ノ協議
申請ヲ以テ其定額内費目ノ金額ヲ流用スル事

第十八條 府縣定額外新ニ要スル費用ヲ支拂スル事

第十九條 國債ニ關スル法規則ヲ遵明發揮シ及其永
極順序ヲ定ムル事

第二十條 諸種ノ公債證書ヲ製造シ及之ヲ發行シ又ハ
其元金利息ヲ拂戻ス事

第二十一條 國債ヲ償還シ紙幣ヲ支消スルノ準備金ヲ増

殖スル方法ヲ設ケ又之ヲ施行スル事

第二十二條 家祿寶典祿及家祿奉還資金ヲ給与スルノ方
法規則ヲ遵明發揮シ其永極順序ヲ定メ及之ヲ處
分スル事

第二十三條 社寺祿通減給与ノ方法ヲ遵明發揮シ及之ヲ
處分スル事

第二十四條 度量衡ヲ製造シ及之ヲ頒布シ或ハ人民ニ准
許シテ製造發行セシムル事

第二十五條 紙幣公債證書及出納傳票ヲ記録スル方法規
則ヲ設ケ或ハ押印ノ式ヲ定メ及之ヲ更正シ及之

中帳簿保存ノ法則ヲ定ムル事

第廿六條 省中ノ書類ヲ刊行シ及刊行書類ノ發賣ヲ許

ス事

第廿七條 各寮ノ職制章程ヲ設立シ及之ヲ改正スル事

第廿八條 省中奏任官ヲ内國各地ニ派出シ或ハ在勤セ

シムル事

第廿九條 省中奏任官ノ歸省除服及養病ノ為メ旅行ノ

諸願ヲ許可スル事

第三十條 外國人ヲ使用スル事

大藏省職制并事略章一覽

印

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

大藏省

414
A2210
2

大藏省職制及事務章程

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

第一章
職制

5即

- 第一 省中ノ官負ヲ統率シテ事務ヲ總判スルヲ掌ル
- 第二 凡制可ヲ乞フ一キ條ト專行ヲ得ルノ件トハ章程ニ照シテ其權限ヲ確守シ事務ヲ整理スルニ於テハ
天皇陛下ニ對シテ其責ニ任ス
- 第三 其專行ヲ得ルノ件ニ於テハ之ヲ全國ニ布達シ或ハ官廳ニ指示シ以テ一般ノ制令ト為スヲ得
- 第四 金穀出納及勅定上ニ關スル事件ニ於テハ立法

内ノ條款、リトモ實際ニ妨礙支吾アル寸ハ意
 見開説ニ可否ヲ辨議スルヲ得ヘシ
 第五 歳入出ヲ豫算シテ之ヲ正院ニ進呈ス
 第六 豫算外ニ於テ不時ニ要スル費送アレハ必ス先
 以下問カリテ豫メ承認ヲ經ルヲトス
 第七 専行ノ事件ハ他官廳長官ノ協議ニ依テ便宜施
 行スルヲアルヘシ
 第八 出納勘定一切ノ事ニ於テハ官省使廳府縣ニ其
 方法規則ヲ指示シ及ヒ之ニ乖違スルヲアレハ
 督責推問スルノ權ヲ有ス
 第九 諸官廳ノ間ニ起ル出納勘定上ノ紛議ハ之ヲ裁
 決ス
 第十 省中奏任官ノ進退ハ臬狀ニテ命ヲ乞ヒ判任以

輔

下 黜陟ハ之ヲ専行ス

卿ノ職掌ヲ輔ケ卿事故アル寸ハ一切ノ事務ヲ
 代理ス

丞

第一 卿ノ命ヲ兼ケ各事務ヲ分課シテ之ヲ提掌ス

第二 所管判王以下ノ能否勤惰ヲ識別シテ卿ニ臬狀
 ス

録

大少丞若クハ課長ノ指揮ニ從ヒ若務ニ處ス

大 歳 省

第二章

事務章程

大蔵省ハ公國ノ歳入出ヲ統轄シ天下ノ財政ヲ
 總理スル所ニシテ細大ノ税関ニ節制シテ外
 ノ租税ヲ徴收シ全計ノ盈縮ヲ量リ萬般ノ公費
 ヲ支發シ随テ其支過ノ當否ヲ検査シ其計數ヲ
 表出シ且金銀銅貨幣及ヒ紙鈔ヲ新裝改造シテ
 財用ヲ通利シ國債ヲ鞏固スル等凡理財會計ニ
 關スル大小ノ事務一トシテ其掌中ニ非ル者ナ
 シ然而之ヲ處分スルニ當リ
 天皇陛下ニ上奏制可ク乞フ者アリ大蔵卿ノ獨
 決ヲ行テ得ル者アリ右兩項ノ綱領ヲ下條ニ掲
 載シ區分スルニ上下款ヲ以テシ權限ヲ明ニス

大蔵省

ル 左ノロニ

上奏制可ヲ請フヘキ事トス

第一條 歳入出ヲ計較シテ一歳公費ノ額ヲ定ムル事

第二條 新ニ租税ヲ賦課シ及ヒ従前賦課ノ税率ヲ増減スル事

第三條 海關稅ヲ定ムル事

第四條 新ニ貿易ヲ開キ及ヒ物貨ノ輸出入ヲ開鎖スル事

第五條 新ニ貨幣ノ形體品量ヲ定ムル或ハ之ノ變更スル事

第六條 新ニ發スル紙幣ノ額并ニ其様式ヲ定ムル或ハ其額ノ増シ或ハ其様式ヲ變更スル事

第七條 公券發行ノ會社ヲ設クシ或ハ大蔵省所管ノ會社條例ヲ制定スル事

第八條 全國ノ統計表ヲ告示スル事

第九條 月給旅費及諸給与ノ制ヲ定ムル事

第十條 官省使廳定額外ニ要スル費用ヲ支給スル事

第十一條 官省使廳府縣額外ノ費用ニ擅ニ仕拂タル時處分ノ事

第十二條 新ニ内外國債ヲ募リ及ヒ諸種國債ノ年限ヲ伸縮シ或ハ利息ヲ増減スル事

第十三條 家祿賞典祿及ヒ給与祿ノ予奪増減等其制度ニ事

第十四條 新ニ度量衡ノ制ヲ定ムル或ハ之ヲ改正スル事

第十五條 裁判軍程ヲ設立シ以テ之ヲ改正スル事
第十六條 憲法ヲ廢置シ及ヒ其等級ヲ定ムル事
第十七條 省中ノ官負ヲ外國ニ派出スル事

丁款

獨決專行ヲ得一キ者トス

- 第一條 定額ノ費用ヲ支出スル事
- 第二條 租稅ヲ徵收スル事
- 第三條 收稅ニ關スル方法規則ヲ遵明テ棹ニ且取扱順序ヲ定ムル事
- 第四條 天災若クハ人為ニ依テ徵收ノ稅額ヲ増減スル事
- 第五條 海關稅ヲ收入ニ及ヒ輸出入ノ物貨取扱ノ方法規則ヲ遵明テ棹ニ且取扱順序ヲ定ムル事
- 第六條 物貨ヲ運輸ニ高登ヲ擴張スルノ方法規則ヲ遵明テ棹ニ且取扱順序ヲ定ムル事
- 第七條 貨幣ヲ鑄造シ及ヒ之ヲ發行シ或ハ紙幣ト交

權事

第八條 額内ノ紙幣ヲ製造シ及ヒ之ヲ發行レ或

ハ新舊紙幣ヲ交換スル事

第九條 金券發行ト發セサルハ不拘銀行及ヒ株式

取引會社米穀相場取引會社其他大藏省所管ノ會

社創立ノ願ヲ許可シ且之ヲ監督シ及ヒ其景況ニ

依リ之ヲ廢停シ或ハ其願ニ依リ廢停ヲ許可スル

事

第十條 金穀出納ノ法則ヲ設立シ或ハ官金爲替及ヒ

預ケノ方ヲ定ムル事

第十一條 會計ノ法ニ依リ金穀ヲ便宜運用スル事

第十二條 統計ノ表式帳簿ヲ定メ或ハ之ヲ變更シ及ヒ

統計ノ要ナル規則ヲ設キ若シ之ヲ指示スル事

第十三條 給旅費及ヒ諸給金ノ支給規則ヲ遵明發揮

シ且取扱順序ヲ定ムル事

第十四條 勘定ノ方法規則及ヒ帳簿式ヲ設立スル事

第十五條 出納勘定其他掌管ノ事件ニ就テハ官省及廳

府縣委任以上ノ官員ヲ出シ或ハ之ヲ召集スル

事

第十六條 官省使廳府縣現費ノ實況ヲ因リ該長官ノ協

議申請ヲ以テ其定額内費目ノ金額ヲ那移流用ス

ル事

第十七條 府縣定額外新ニ要スル費用ヲ支給スル事

第十八條 國債ニ關スル方法規則ヲ遵明發揮シ且取扱

ル事

第十九條 各種ノ公債證書ヲ製造シ及ヒ之ヲ發行シ并

其三 金利息ヲ拂戻ス事

第二條 債還ニ紙幣ヲ支消スルノ準備金ヲ増殖スル方法ヲ設ケ若シ之ヲ施行スル事

第二十一條 家祿賞典祿及ヒ家祿奉還賞金ヲ給与スルノ方法規則ヲ遵明發揮シ且取扱順序ヲ定メ若シ之ヲ廢スル事

第二十二條 社寺祿減給与ノ方法ヲ説明發揮シ若シ之ヲ處分スル事

第二十三條 度量衡ヲ製造シ及ヒ之ヲ頒布シ或ハ人民ニ准許シテ製造發行セシムル事

第二十四條 紙幣公債證書及ヒ出納傳票ヲ記録スル方法規則ヲ設ケ若シ押印ノ式ヲ定メ或ハ之ヲ更正シ且シテ諸帳簿保存ノ法則ヲ定ムル事

第二十五條 官中ノ書類ヲ刊行シ或ハ刊行書類ノ發賣ヲ許ス事

第二十六條 各寮ノ職制章程ヲ設立シ或ハ之ヲ改正スル事

第二十七條 省中奏任官及内閣各地ニ派出シ或ハ在勤セシムル事

第二十八條 省中奏任官ノ歸省除服及ヒ養病ノ為メ旅行ノ請願ヲ許可スル事

第二十九條 外國人ヲ使用スル事

大 義 省

Handwritten text in Arabic script, appearing as faint, scattered characters across the page.

Handwritten text in Arabic script, contained within a red-lined rectangular frame. The text is organized into vertical columns, typical of a ledger or account book. Some characters are written in red ink.

大藏省職制及事務

音釋

大藏省

114
A2210
3

大蔵省職制及事務章程

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

第一章

第一條 省中一切ノ事務ヲ總理スルニ職制以テ其

權限ヲ知り章程以テ其統紀ヲ明シ

シ互ニ相于犯スルヲ得ス此レヲ

大蔵省職制及事務章程トス

第二條 大蔵省ハ理財會計ノ事務ヲ專掌ス

ル趣ナリ

第三條 省務ヲ支分シテ九寮トス

一等

大蔵省

造幣寮 租稅寮 鑛山寮
二等

紙幣寮 出納寮 統計寮
検査寮 國債寮 記録寮

第二章

第一條

卿

第一本省及各寮局ノ諸官員ヲ統率シ

省中一切ノ事務ヲ總判スルヲ掌ル

第二全國ノ歲出入ヲ審ニシ出納計算

ノ法ヲ明ニシ理財ノ便ヲ計リ貨幣
平準ヲ得セシムル等總テ其掌
管ノ事務ニ於テハ大臣ニ對
シ其現務ノ便否ヲ辨明スルヲ
得而シテ其事務ヲ調理スルニ
於テハ大臣ニ對シテ擔保ノ責ニ
任ス

第三事務章程ニ照シ制可ヲ乞フ條ハ
上奏シ其專任ヲ得ル條ハ便宜
處分スルノ權ヲ有ス

第四各寮頭ヨリ具状スル事務ハ其緩急
ヲ審察シ之ヲ次判取捨スルノ權ヲ
有ス

第五欽席スルコトアル時ハ輔ニ命シテ其事務
ヲ代理セシムルノ權ヲ有ス

第六省中ノ官員奏任江上ノ進退ハ本
政官ニ於テ命スル雖此之ヲ
スヘキハ其要旨ヲ具状シテ命ヲ
乞フ

第七判任以下ハ其能否ヲ監別シ丞及

寮頭ノ具状ニ由テ黜陟ヲ專
行スルノ權ヲ有ス

第八左院ノ會議ニ出席シ其統率ノ
官員ヲ議官ニ撰定スルノ權ヲ
有ス

第三條

大輔

少輔

第一職掌卿ニ亞ク卿ヲ輔ケテ其事
務ヲ調理スル事

大藏省

第二 卿ヨリ代理ヲ命セラル、時ハ一切ノ事務總理ス

第三 省中掌管ノ事務ニ於テハ卿ノ命ニ從テ正院ニ核リ其現各ノ便否ヲ辨明スルヲ得ル

第三條

大丞

少丞

第一 卿ノ命ニ從テ省中各課ノ事務ヲ管理ス

第二 各課ノ事務ニ就テハ其擔保ノ制限ニヨリ卿ニ對シ之ヲ調理スルノ責ニ任ス

第三 所管ノ月報考課状ヲ檢閲ス

卿ニ呈ス

第四 所管判任以下ノ勤惰ヲ正シ各課ノ事務ヲ獎督シ其能不_レ別ニ黜陟ヲ具状ス

第四條

大錄

大錄

權大録

中録

權中録

少録

權少録

第一各局課長ニ送テ其事務ヲ處理ス

第二凡文書ヲ受付往復スルハ都テ課長

ノ指授ニ送テ

第三章

本省總管スル所事務章程左ノ如シ

第一條 諸官省各局各府縣廳費用ノ額ヲ

定メ或ハ之ヲ増減スル事

第二條 月給旅費其他公費ノ制限ヲ定メ

或ハ之ヲ釐革スル事

第三條 諸旅旅社寺給與ノ制限ヲ定ムル事

第四條 定額ナキ諸費或ハ一時ノ費項ヲ定

ムル事

第五條 貨幣ノ品位兌換シ其製造ノ方法

ヲ改定スル事

第六條 紙幣金券公債證書及諸印綫ノ種

類ヲ製造及改正スル事

第七條 度量衡ヲ改正スル事

第八條 内外国債ヲ发行シ或ハ負債證券ヲ

發行スル事

第九條 會社ニ金券發行ヲ准許スル事

第十條 内外一般租税庸ノ法制ヲ廢立スル事

第十一條 寮司ヲ廢置シ職制章程ヲ改定スル事

第十二條 省中奏任以上ノ官員ヲ進退スル事

第十三條 所管ノ事務ニ付一般ニ布達ヲ要スル

事

以上各條皆正院ノ議判決裁ニ依テ施行

スヘント雖モ其意見ヲ上奏スルハ大

藏卿ノ任タリ但全體ノ制度法律

係ル草案ニ至テハ制可ニ經テ之ヲ起

スヘン

第十四條 内國既定ノ租税及海關稅等ヲ收

納スル事

第十五條 官省使府縣ノ定額アル經費月給

旅費其他既定ノ公費ヲ供給ス

ル事

第拾六條 諸族ノ秩祿賞典及社寺給秩ヲ供
給スル事

第拾七條 諸官社ノ定則ナル公費ヲ供給スル事

第拾八條 凡金穀ノ成額ハ之ヲ變易スルヲ得ス
ト雖モ其既定スル者ニ就テ之ヲ運
用シ其便益ヲ謀ルニ至テハ適宜處
分スルヲ得ル事

但既定ノ貢租ヲ金ニ換ヘテ收入シ或ハ
貢納ノ穀ヲ糶賣シ或ハ諸廳既定
ノ月額不足ニヨリ繰替渡シテ請ア

レハ之ヲ可否或ハ貸渡金穀ノ返納期限
ヲ改メ或ハ發行金券ノ景況ヲ
熟視シテ集散ノ目途ヲ立ツル
等ノ類ノ如シ

第拾九條 諸租稅收領ノ期ヲ延縮シ之ヲ督促スル
事

第廿條 各府縣其他ニ貸付ノ金穀ハ期ヲ追
テ督促領收スル事

第廿一條 神社宮殿官舎倉庫堤防道路橋梁
津港溝渠一切ノ修造其費用官詠

定規アルモノヲ支給スル事

但定規ナキモノト雖モ三千圓マテノ使用
ハ此限ニ非ス

第廿二條

府縣ノ諸費定額ナキモノト雖モ三千
圓迄ハ之ヲ專決スルヲ得ル事

第廿三條

官省使臨時ノ出費ハ其主任ヨリ
上奏制可ヲ得シモノニ非サレハ之ヲ辦
給スルコトヲ得ス

但臨時出費ニ關スルアル時ハ之ヲ大蔵
卿ニ下問シテ其意見ヲ採ルコトアル

ハシ

第廿四條

品位確定セシ貨幣ヲ鑄造シ制可ノ紙
幣金券公債證書及諸印紙ヲ製
作スル事

第廿五條

準備金ヲ蓄藏スル官庫ノ鑰鑰ヲ掌リ
其規則ニ從テ之ヲ出入スル事

第廿六條

諸般ノ會計ヲ通算スル為メ相當ノ方
法ヲ定ムル事

第廿七條

定則アル地租及大繩 流作場ノ貢租
或ハ年期アル諸稜稅諸掛物等ノ

類定免檢見荒地營業廢業及天
災等ニテ送前租額増減スルモノ
或ハ慣行ノ税法編重偏輕ノモノハ
府縣ノ甲牒ニ送ヒ例格ニ照準シ
便宜處分スル事

第七八條

諸鑛礦ヲ起シ或ハ廢棄シ及試掘
等ノ額ヲ便宜處分スル事

第七九條

各府縣ヨリ上納スル租稅及官省使其
他一切ノ公費計筭ハ其分類ヲ詳
明ニシ毎月毎歲一覽表ヲ副シテ

上呈スル事

第八〇條

歲出入較計ノ目途トシテ毎歲其概
計表ヲ筭出シテ上呈スル事

第八一條

官省使府縣廳ノ公費及貢納ノ計
算簿ハ一ニ大藏ノ規則ニ送テ出
サシメ之ヲ檢査シ不當ノ項歟ハ訂
正センメ或ハ其實況ヲ勘案スル為メ
便宜ニ檢査ノ官員ヲ遣ヒ會計
簿冊ヲ檢閲センムル事

第八二條

省中奏任及判任ノ官員ヲ地方ニ派

出スル事

第卅三條 掌管ノ事件ニ付テ推問照會督促等ノ文書ハ縱令各府縣ニ通シテ達スル事ト雖モ便宜ニ布達スルヲ得ル事

第卅四條 省中ノ事務官省ニ交渉スルモノハ其官省ニ照會シテ執行スヘキ事

第卅五條 凡省中於テ處分スル事務細大トナク毎三月毎一年ト之ヲ分別シテ月報考課狀ヲ詳記シテ上達スル事

第卅六條 定額ヲ以テ省中一切ノ諸費ヲ辯給スル事

第卅七條 官省使府縣一切ノ經費ハ其分類ヲ詳悉シテ毎三月每一歳ニ覽表ヲ製シテ上呈スヘキ事

以上各條ハ藏卿委任ノ權ヲ以テ之ヲ決判施行シ且ツ幸ホ八月定ムル所ノ章程及其後ハ藏卿ヨリ具次レテ已ニ准允ヲ得タルノ条件總ヘテ此章程ト矛盾セサルモノハ亦之ヲ施行スルヲ許ス

然レトモ之ヲ行フノ後其細大緩急ヲ
謀リ其旨趣ヲ上陳スヘシ

大雅

大雅

大藏省職制并事務章程

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

第一章

職制

卿

第一 省中ノ官實ヲ統率シテ事務ヲ

総判スルヲ掌ル

第二 凡ソ制可ヲ乞フヘキ條ト專任ヲ

得ルハ件トハ章程ニ照シテ其

権限ヲ確守シ事務ヲ整理スル

ニ於テハ太政大臣ニ對シテ其責

大藏省

414
A 2210
4

ニ任ス

第三 其專任ヲ得ルノ件ニ於テハ之ヲ

全國ニ布達シ或ハ官廳ニ指示シ

以テ一般ノ法令ト為スヲ得ヘシ

第四 金穀出納并勘定上ニ關スル事

件ニ於テハ立法内ノ條款タリト

モ實際ニ妨碍支吾アル時ハ意見

ヲ開說シ可否ヲ辨議スルヲ得

ヘシ

第五 歳入出ヲ豫算シテ之ヲ正院ニ進

呈ス

第六 豫算外ニ於テ不時ニ要スル費途

アレハ必ス下議シテ豫メ承認

ヲ經ル事トス

第七 專任ノ事任ハ他官廳長ノ協

議ニ依テ便宜施行スルヲアルヘ

シ

第八 出納勘定一切ノ事ニ於テハ諸

官省使府縣ニ其方法規則ヲ

指示シ及ヒ之ニ乖違スル事アレ

ハ督責推問スルノ權ヲ有ス

第九 諸官廳ノ間ニ起ル所ノ出納勘

定上ノ紛議ハ之ヲ裁決ス

第十 省中奏官ノ進退ハ具状シテ

命ヲ乞ヒ判任以下ノ黜陟ハ之

ヲ專行ス

輔

卿ノ職掌ヲ輔ケ卿事故アルハ

ハ一切ノ事務ヲ代理ス

丞

第一 卿ノ命ヲ承ケ各事務ヲ分課

シテ之ヲ提掌ス

第二 省中判任以下ノ能否勤惰ヲ識

別シテ卿ニ具状ス

録

大少丞若クハ課長ノ指揮ニ從ヒ

各務ニ處ス

第二章

綱領事務章程

大藏省ハ全國ノ歲入出ヲ統轄シ天下ノ財政ヲ總
理スルノ所ニシテ細大ノ稅則ヲ節制シテ内外ノ租
稅ヲ徵收シ全計ノ盈縮ヲ量リ萬般ノ公費ヲ
支給シ隨テ其支過ノ當否ヲ檢査シ其計數ヲ
表出シ且金銀銅貨幣及紙鈔ヲ新製改造
シテ財用ヲ通利シ國債ヲ幹辦スル等凡理財
會計ニ關スル大小ノ事務トシテ其掌管ニ非
ル者ナシ然而之ヲ處分スルニ當リ太政大臣ニ

上申決裁ヲ取ル者アリ大藏卿ノ獨決專行ス
ル者アリ右兩項ノ綱領ヲ下條ニ掲載シ區分
スルニ上下款ヲ以テシ權限ヲ明ニスル左ノ如シ

上款

太政大臣ニ上申シテ決裁ヲ請フヘキ者トス

第一條 歲入出ヲ計較シテ一歲公費ノ額ヲ定ムル事

第二條 新ニ租稅ヲ賦課シ及ヒ從前賦課ノ稅

率ヲ増減スル事

第三條 海關稅ヲ定ムル事

第四條 新ニ貿易ヲ開キ及ヒ物貨ノ輸出入ヲ開

領スル事

第五條 新ニ貨幣ノ形體品量ヲ定メ或ハ之レ

ヲ變更スル事

第六條 新ニ發スル紙幣ノ額及ヒ其樣式ヲ定メ

且ツ其額ヲ増ス事

第七條 金券發行ノ會社ヲ准許シ及ヒ大藏省

所管ノ會社條例ヲ制定スル事

第八條 全國ノ統計表ヲ告示スル事

第九條 月給俸費及ヒ諸給與ノ制ヲ定ムル事

第十條 官省使定額外新ニ要スル費用ノ事

第十一條 官省使府縣額外ノ費用ヲ擅ニ任拂ヒタル
時處分ノ事

第十二條 新ニ内外國債ヲ募リ及ヒ諸種國債ノ
年限ヲ伸縮シ或ハ利息ヲ増減スル事

第十三條 家祿賞典祿及ヒ社寺祿ノ与奪増減等
其制度ヲ定ムル事

第十四條 新ニ度量衡ノ制ヲ定メ或ハ之ヲ改正スル
事

第十五條 職制章程ヲ設立シ及ヒ之ヲ改正スル事
第十六條 各寮ヲ廢置シ及ヒ其等級ヲ定ムル事

第十七條 省中ノ官員ヲ外國ヘ派出スル事

下款

大藏卿、專任施行ヲ得ヘキ者トス

第一條 定額アル費用ヲ支出スル事

第二條 租税ヲ徴收スル事

第三條 取税ニ關スル法規則ヲ遵明登揮シ且

取扱順序ヲ定ムル事

第四條 天災若シクハ人為ニ依テ徴收ノ税額ヲ増

減スル事

第五條 海關稅ヲ收入シ及ニ輸出入ノ物貨取扱

ノ法規則ヲ遵明登揮シ且取扱順序

ヲ定ムル事

第六條 物貨出入ノ方法ヲ設ケ及ヒ其取扱ノ順序ヲ定ムル事

第七條 貨幣ヲ鑄造シ及ヒ之ヲ發行シ或ハ紙幣ト交換スル事

第八條 既定額内ノ紙幣ヲ製造シ及ヒ之ヲ發行シ或ハ新舊紙幣ヲ交換スル事

第九條 金券ヲ發行スル會社ヲ監督シ及ヒ其景況ニ因リ之ヲ廢停シ或ハ其額ニ因リ廢停ヲ許可スル事

第十條 金穀出納ノ法則ヲ設ケ之或ハ官金為替及ヒ預ケノ方ヲ定ムル事

第十一條 統計ノ表式帳簿ヲ定メ又ハ之ヲ變更シ及ヒ統計ニ要ナル規則ヲ設ケ之ヲ指示スル事

第十二條 月給旅費及ヒ諸給與ノ支給規則ヲ遵明察揮シ及ヒ取扱順序ヲ定ムル事

第十三條 勘定ノ方法規則及ヒ帳簿式ヲ設ケスル事
第十四條 勘定上ノ事件ニ就テハ官省長官ヲ督責推問スル事

第十五條 官省及府縣現費ノ實況ニ因リ該長官ノ
^{申議}申請ヲ以テ其定額内費目ノ金額ヲ那
移流用スル事

第十六條 府縣定額外新ニ要スル費用ノ事

第十七條 國債ニ關スル法規則ヲ遵明奏揮シ及其

取扱順序ヲ定ムル事

第十八條 諸種ノ公債證書ヲ製造シ及ヒ之ヲ發行シ

又ハ其元金利息ヲ拂戻ス事

第十九條 國債ヲ償還シ紙幣ヲ支消スルノ準備金ヲ

増殖スル方法ヲ設ケ又之ヲ施行スル事

第二十條 家祿賞典祿及ヒ家祿奉還資金ヲ給與ス

ルノ法規則ヲ遵明奏揮シ其取扱順序ヲ

定メ及ヒ之ヲ處分スル事

第二十一條 社寺祿通減給與ノ方法ヲ遵明奏揮シ及ヒ

之ヲ處分スル事

第二十二條 度量衡ヲ製造シ又之ヲ頒布シ或ハ人民ニ

准許シテ製造發行セシムル事

第二十三條 紙幣公債證書及ヒ出納傳票ヲ記録スル

方法規則ヲ設ケ或ハ押印ノ式ヲ定メ又之ヲ

更正シ及ヒ省中帳簿保存ノ法則ヲ定ムル

事

第三四條 省中ノ書類ヲ刊行シ又刊行書類ノ發賣ヲ許ス事

第三五條 各寮ノ職制章程ヲ設立シ及ヒ之ヲ改正スル事

第三六條 省中奏任官ヲ内國各地ニ派出シ或ハ在勤セシムル事

第三七條 省中奏任官ノ帰省除服及ヒ養病ノ為メ旅行ノ請願ヲ許可スル事

第三八條 外國人ヲ使用スル事

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

大藏省事務章程

大藏ハ理財會計一切ノ庶務歳入歳費ノ

總計ヲ整理シ及全國人民ノ身分地方ノ

警邏驛遞郵便等ノ事ヲ總管ス

其事務ノ綱領左ノ如シ

全國地方石高并地理ノ事

内國一般ノ租稅傭ノ事

附物品稅印紙稅特許稅雜稅等ノ

事

海關稅ノ事

一切定額公費ノ事

一切臨時公費ノ事

定額海陸軍費ノ事

臨時海陸軍費ノ事

諸官祿旅費及臨時供給スル費用

ノ事

諸族秩祿ノ事

金穀ニテ支給スル賞典ノ事

外國交際上ニ屬スル費用ノ事

神社宮殿及官舎諸營繕ニ屬スル費

用ノ事

堤防橋梁ノ造築ニ屬スル費用ノ事

諸港津ニ屬スル費用ノ事

舟船車馬及諸器械ニ屬スル費用ノ

事

貨幣ノ事

度量衡ノ事

通商ノ事

附諸會社ノ事

學校ニ屬スル費用ノ事

諸營繕ノ事

一切倉庫ノ事

蓄積ノ事

内外國債ノ事

全國戸數人負ノ事

人民身分ノ事

驛道郵便ノ事

社寺ノ事

勸業ノ事

地方敬言羅ノ事

聴訟ノ事

地方奏任以上官員ノ事

凡此各款皆大藏卿輔主任掌管ノ事
務トス然リト雖凡之ヲ處分スルニ當リ上
奏

制可ヲ經ヘキ條アリ專執施行スヘキ
ノ件アリ之ヲ區分シテ以テ其職任ノ
章程ヲ明カニセスニハアニ可カラス今其例

目ヲ分ツ左ノ如シ

○上款

上奏

制可ヲ經テ處分スヘキノ條

第一條

全國ノ土地ヲ檢シ其肥瘠ヲ品別シ其
制規ヲ釐革スル事

第二條

凡内外西部一般ノ租稅章程ヲ増減
廢立^ニ或ハ之ヲ變更スル事

第三條

新ニ商工ノ稅及物品印紙其他諸雜稅
ノ貢納規則ヲ設ケ其稅額ヲ定ムル事

第四條

州郡ノ經界ヲ畫定^ニ府縣村市ノ制
置及土地ノ名稱ヲ更正スル事

第五條

諸官者各局各地方官公費ノ額ヲ定ム
ル事

第六條

諸官祿及旅費其他雜費ノ制限ヲ
定ムル事

第七條

氏族ノ秩祿及社寺給與ノ制限ヲ

定ムル事

第八條

凡テ諸官負諸局ノ定額アル公費及ヒ
官孫秩祿其他雜費ノ制限ヲ變更
スル事

第九條

凡定額ナキ諸費ノ制限ヲ定ムル事
但右兩條ハ其金額三千兩未滿ニテ一般

ノ關係タラサレハ大藏卿輔ノ專執ヲ
得可シ

第十條

金穀ニテ附與スル賞典ノ制限ヲ定ム
ル事

第十一條

定額外非常ノ軍費及國費ヲ供給
スル事

第十二條

貨幣製造ノ方法ヲ立其品量ヲ定ムル事

第十三條

度量衡ノ新制ヲ立テ或ハ古制ヲ改正スル事

第十四條

為替會社ニ金券發行ノ准许ヲ與

レ或ハ其職業商品ニヨリテ特例殊典ヲ與フル事

第十五條

驛遞從來ノ方法ヲ整正シ郵便規則ヲ設立スル事

第十六條

便宜倉庫ヲ造營スル事

第十七條

歳入歳費ヲ豫算シテ来歳會計ノ目途ヲ定ムル事

第十八條

内國債ノ事

内國債手形又ハ紙幣ヲ製シ又ハ之ヲ發行シ又ハ之ヲ交換スル事

第十九條

外國債ノ事

第二十條

戶籍ノ法ヲ改正スル事

第二十一條

人民族屬身分ニ関スル変正ノ事

第二十二條

民産ヲ檢スルノ方法ヲ設クル事

第二十三條

諸港津開閉及港津ノ規則ヲ創立

改定不事

第廿四條

寺院ノ廢立及例規ヲ變革スル事

第廿五條

驛道運輸ノ法ヲ改メ大ニ道路ヲ

變換スル事

第廿六條

勸業ノ規則ヲ定メ或ハ之ヲ變スル

事

第廿七條

地方警邏ノ規則ヲ定メ或ハ之ヲ變

革スル事

第廿八條

外國人ヲ傭使スル事

第廿九條

凡テ省中一切ノ事務新法ヲ創立

シ旧規ヲ改正スル事

第三十條

新ニ寮司ヲ設ケ或ハ従前ノ寮司
ヲ廢スル事

第三十一條

省中各寮司ヲ任以上ノ官員ヲ他
方ノ派出スル事

第三十二條

地方官奏任以上ノ官員奉薦黜陟
ノ事

以上各款皆大藏卿補之ヲ判案シテ
其要旨ヲ畧記シ又ハ處分ノ法案ヲ
作り上奏シテ
制可ヲ乞テ後之ヲ施行スヘシ

○下款

上奏

制可ヲ徑スシテ專執處置スルヲ得ヘ
○キノ條

第一條

全國ノ高租税ノ数ヲ詳明ニ檢知スル

事

第二條

定則アル地方ノ租税定免定式臨時
ノ石代納其他反高見取流作場ノ

貢租或ハ年朔アル諸雜税之類物ホノ類ハ地方種
ノ申牒ニ從ヒ恒例ニ照準ニ便宜斟酌シテ示スル事

第三條

定則ハ海關諸税ハ其章程ニ從テ督促領收スヘキ事

第四條

印紙税郵便税特許^税及職工商業物品等ハ
賦征スル諸雜税期ヲ逐テ督促領收スヘキ事

第五條

各府縣ニ石言ニ懸シテ貸附スル紙幣又他臨時貸附ノ金額ハ期ヲ逐テ督促領收スル事

第六條

諸官省其他各局府縣官廳トモ定額アル公費ハ其計算ヲ詳明ニシテ便宜之ヲ供給シ不當ノ事件ハ之ヲ推問スル事

第七條

定則アル諸官福金穀ニテ附與スル

賞典俸給秩祿其他公用旅行ノ諸費ハ其軌範ニ照シテ支給スル事

第八條

海陸軍費ハ既定ノ常額ニ從テ順次辨給スル事

第九條

隄防道路橋梁ヲ修築シ津港ヲ便ニシ溝渠ヲ浚ヒ其他鐵軌電線

大藏省
燈明臺船路標等一切ノ興作其費
用定規アルモノハ之ヲ較計シテ便宜支
給スル事

第十條

諸鑛礦ノ開鑿及臨時興作修繕
或ハ器械ヲ購ヒ或ハ外國人ヲ使用ス
ル其他臨時救荒ニ屬スルノ施與貸
附等其經費定額ナキ事ト虽此主

任ノ官省各局ニテ上奏

制可ヲ得シモノハ之ヲ辨給スヘキ事

但制可ノ前必ス之ヲ大藏卿輔ニ下議

スルヲ則トス

第十一條

各地方ニテ蓄積スル豫備ノ米穀ハ要
分ヲ審案シテ便宜指令スルヲ得ヘ
キ事

第十二條

品位ノ確定セシ貨幣ハ便宜ニ從テ鑄造スル事

第十三條

為替會社ノ准允ヲ與フル事

但金券發行ノ其條特殊ノ准允ハ

上款ニ照準スヘシ

第十四條

神社官殿諸官廳邸舎等例規アル

モノハ費用ヲ按算シテ便宜修繕スル

事

第十五條

便宜倉庫ヲ造営修繕スル事

但經費三千兩以上ハ

上裁ノ後之ヲ施行ス可シ

第十六條

歳入歳費ノ物額ヲ詳明ニシ諸般ノ會
計ヲ通算スル夕ノ相当ノ施設ヲ立ツ
ル事

第十七條

郵便陸運廻漕等ノ便ヲ謀ルニ付相
當ノ施設ヲ立ル事

第十八條

各地方聴ヨリ上達スル貢租ノ記牒

或ハ計算ノ簿冊其他出納會計ニ関スル帳
ハ綿密ニ點檢査合シテ後考ニ備フ可キ事

第十九條

毎歳時日ヲ定メ前年ノ歳入歳出及ヒ國債
ノ増減貨幣鑄造ノ負數其他一般ノ公
布ヲ要スル計算ノ事務ハ其分類ヲ詳
明ニシ統計表ヲ製シ以テ全國ニ公示スル事

第二十條

戸籍ノ事務地方實際ノ便否ニヨリ緩急便宜處置スル事

第二十一條

人民身分ノ事務制度條例ニ関ラサルモノヲ處置スル事

第二十二條

帰籍復籍及棄兒養老ノ典ニ係地方申牒ノ事件ヲ査檢シ既定ノ恒例ニ照シテ指令スル事

第二十三條

村市ノ經界ヲ査定スル事

第二十四條

田畑山林原野沮澤湖沼港津海岸一管轄中又ハ他ノ管轄ニ交渉スルヲ査査スル事

第二十五條

田畑山林屋敷地ヲ變之及墾地止所

或ハ起返開墾等ノ類土地ニ関スル
地方ノ申牒ハ成規恒例ニ照シテ便
宜處分スル事

第二十六條

非常ノ災変ニ由リ流亡セシ人畜土地
家屋ヲ調査スル事

第二十七條

社寺境内ノ區分地方ヨリ決ヲ乞フ時

ハ之ヲ裁判スル事

第二十八條

僧尼ヲ度シ及其還俗ノ數ヲ詳ニスル事

第二十九條

寺職及格式教法ノ争ヒ訴出スルア

レハ之ヲ判定スル事

但司法有ニ出スヘキハ此限ニ非ス

第三十條

淫祠及~~寺~~壇無住ノ寺院ヲ廢スル事

第三十一條

驛道傳馬所ノ費用ヲ省減シ渡津
驛場ヲ改メ又ハ輿ヲ車ニ改メ船ヲ累
ニ變スル等地方ノ便宜ニ從ヒ之ヲ可置シ
或ハ之ヲ許可スル事

第三十二條

地方廳ヨリ申牒シテ助郷ノ事ヲ乞フ

ニ其乞ニ從ヒ之ヲ命シ又ハ之ヲ免ス
事

第三十三條

驛道助郷ノ通債ヲ處分スル事

第三十四條

各地ノ便宜ヨリ郵便ヲ開キ其定例
ノ法ヲ布達シ或ハ之ヲ會社ニ付シ
便宜ニ置スル事

第三十五條

驛通人足遣人別限ヲ査定スル事

第三十六條

道路里程ヲ釐正スル事

第三十七條

人馬船渠ノ賃錢地方ノ申案ヲ商
定スル事

第三十八條

第三十九條

地方官職負判任以下事務ノ繁閑ニ
ヨリ増減ノ申請ヲ判裁スル事

第四十條

省中官負判任以下時宜ニ應シテ地方
ニ派出シテ事務ヲ執リ或ハ實地ヲ

検査ニシムル事

以上各款大藏卿輔之ヲ專執處置スル
ヲ得ヘシ而シテ之ヲ行フノ後能其細大
緩急ヲ分別シ其旨趣ヲ上達ス可シ

第一章

凡ソ一般ノ布告ヲ要スル件ハ都テ太政官ヨリ發
令スルヲ則トス故ニ款内モシ全國又ハ各部ハ頒布
告示スヘキ事アラハ其由ヲ具狀シテ之ヲ乞フ可シ

但尋常推問照會指令督促等ノ文書
ハ縱令各地方ハ通シテ相達スル事ト虽
モ便宜往復受付スルヲ得ヘシ

第二章

凡ソ定額ナキ費用ハ章程中委任ノ外一
切正院ニ於テ許可スルノ信書ナケレハ之ヲ
出スルヲ為ス可ラス

第三章

大 滯 省
定額ナキ費用ノ額ヲ定メ或ハ臨時其支
給ヲ許可スル等ハ必ス先大蔵卿輔ニ
下議シテ之ヲ判決スル事トス

第四章

凡新ニ創立セントスル諸興作工役ノ費用
ハ右院ニ於テ照會快議ノ節大蔵卿輔會
計ノ實際ヲ審案シ之ヲ兼諾シテ後正院
ニ建議ス可シ

第五章

歳入ノ豫額ヲ概算シテ定額臨時諸
公費ヲ審案シ毎年歳出入ノ豫算ヲ立
テ正院ノ許可ヲ以テ之ヲ豫定ス可シ

第六章

諸官省各局地方廳トモ定額ナキ臨時
ノ費用ハ其官省各局ニ照會シテ勉テ定額ヲ
設ル事ヲ為サシムヘシ或ハ定ムヘカラサル費用

如キモ其概算ヲ出サシメテ歳入出較計ノ
目途ニ供スヘシ

第七章

凡ソ各地方廳金穀ニ関スル事定額ヲ思準
スルノ外大藏卿輔ノ指令ヲ得スシテ執行セ
シムヘカラスモシ或ハ臨時其實況ヲ詳悉ス
ルタメ時々属吏ヲ遣ハシ其金穀ヲ檢閲シ
又ハ其簿冊ヲ調査シ及便宜其處分ヲ

命令スル事ヲ得可シ

第八章

諸官省各局ノ公費海陸軍費及額内ノ
常費其他海印派出官員ノ費用等能ク
其實況ヲ詳悉スルタメ臨時属吏ヲ出シテ
會計簿冊ヲ檢査セシム可シ

第九章

諸官省各局各地方廳ノ公用經費度支計算ノ法及

大藏省
出納ノ記載等一々大蔵ノ規則ニ從ハシメ其計
算ヲ點檢シ之ヲ詳知ス可シ

第十章

諸官省各局各地方廳ノ歳費歳入及ヒ戸口
地積其他一切統計表出スヘキモノハ例年
期ヲ定テ大蔵ヘ達セシメ之ヲ查計部分
シ表ヲ作り以テ國內ニ公布ス可シ

第十一章

内外國債ヲ支消シ不虞ノ費用ニ供充スル
為ノ勉メテ諸經費ヲ節畧シ貯蓄准
備ノ制ヲ設ク可シ

第十二章

凡章程ニ係ルノ事務ハ正院ヨリ出ル事ト
イハレ實際ニ不可ナルニ於テハ大蔵卿輔之
ヲ覆案スルヲ得可シ

第十三章

凡省中委任ノ事務ニ係ル件ハ諸官省
各局氏大蔵卿輔ニ照會シテ後執行ス
ヘキ事トス

第十四章

凡ソ省中ニ於テ處分スル出納地方民事
一切ノ事務ハ細大トナク毎月又ハ毎三月
又ハ毎一年ト之ヲ分別シテ其考課状ヲ
詳記シテ正院へ上達スヘシ

第十五章

上下款外更ニ掲載スヘキ事及之ヲ更正
スヘキ事アラハ宜シク公議ヲ盡シテ其條件
ヲ増減改革ス可シ

右職制及事務章程

上裁制可スル所ナリ能ク之ヲ守リ其程
限ヲ愆ル勿レ

三職

右職制及事務章程恪守遵奉其任
ヲ遂ク可シ若奉職無狀ナレハ臣等謹テ
其責ニ任ス可キ也

大藏卿輔